

No. 102

1993.

7. 15

岐阜の博物館

〒501-32 関市小屋名
(百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111(代)
振替 名古屋 6 37909



博物館建設時の旅の思い出

吉田三郎

昭和40年代の末の頃、置
県100年を記念して博物館
をつくろうという計画があ
りました。その頃私は、平野知事と共に宮崎県
で行われましたある大会に出席し、強烈な感動
を受けたことがあったのです。ある感動とは宮
崎県の黒木知事とお話をしておりました時、私
はどういう話の中か定かではありませんが、
「私の心の故郷は伊吹山に落ちる夕日の夕焼け
空です。子どもの頃はどんなに感動したか知り
ません。しかし今はありません。しかも芭蕉の
句「おりおりに 伊吹を見ては 冬ごもり」に
ある住民^{あが}憧れの山に一本のドライブウェイが横
に走るようになって、我々の夢は消えました。
今の私は全国を旅行するたびに夕焼け空を求め
て歩いております。今では直江津のあの茜色の
夕焼けをこよなく愛しております。」と申しまし
たところ、黒木知事は「宮崎の夕日の^{あけ}茜色は天
下第一です。今日は天気も良く、それでは夕日
を見ながら食事をしましょう。」とお誘いを受け
海岸のホテルで見せていただきました。正に美
しい夕日、夕焼けの茜色でありました。今も強
い印象で心に残っております。その時の私は何
でも素直に受け入れられる美しい心になってお
りました。この心で美術館、音楽堂、博物館に
入っていただけることが大切ではないかと考え
ました。昔の言葉にも「火宅を出でて露路に入
る」ということがあります。人は気持を切り替
えて入館して頂かなければならないと思います。
それにはアメニティな環境づくりが大切であり
ます。たまたま宮崎神宮の中にある宮崎総合博
物館を見て、なお一層その感を深くしました。
立派な百年記念公園をつくってその中に博物館
をつくる。これは本当に大事なことだと思いま

した。

さて、私は宮崎で黒木知事と別れ、佐賀美術
館を訪問しました。その理由の第一は、岐阜県
の美濃焼、佐賀県の有田焼、しかもそれぞれが
長い伝統を持っていること。第二は館長が高名
な陶器の専門家であること。その当時の館長は
長竹偉先生です。以上の理由で長竹先生にお会
いして博物館建設についての注意事項を色々教
えて頂きました。その中で一番印象に残ってお
ります二点について申し述べたいと思います。
一点は、発掘品等が出た時、国立博物館、県立
美術館、有田町立陶磁器資料館とそれぞれにふ
さわしいものに分けてゆく。それによって佐賀
美術館の性格をはっきりさせてゆくということ
です。二点目は、例えば唐津焼の企画展をやる
とした場合、県内の収集家が「私も出品しよう。」
と言って来られます。しかし陶器は^{真実}の見分
けが難しいし、下手な断りかたをすると本人に
傷がつきます。したがって一流の専門家に委員
になって頂き、極秘に、慎重に進めなければなら
ないと教えてもらいました。また陶器の時代
づけの方法も色々教えて頂き私も一、二実験を
してみました。しかし先生は、一番大事なことは
目を養うことだと言われ、それには常に名品
だけを見ることだと強調されました。国宝の
もの、重要文化財のもの、大家の代表作等です。
これは後で浜田庄司先生が「目と手、特に君達
は目を養いなさい。」と言われたことと共通して
おります。心に残る九州の旅でありました。

先頃佐賀県教育委員会の先生と九大の先生に
吉野ケ里遺跡と金隈遺跡をご案内頂きました折、
長竹先生のことをお尋ねしたら今は故人になら
れていると伺い大変残念でした。

(岐阜県教育委員会委員)

織部焼の源流と国際性

とき 平成5年6月20日

ところ 岐阜県博物館

講師 加藤卓男氏

本年度第1回の公開講座は、岐阜県博物館で開催されている特別展「土と炎の芸術」の講演会をそれにあてて実施しました。

加藤先生は県重要無形文化財に認定されており、現在では美濃陶芸協会名誉会長として後進の指導にあたられるかたわら、今春、フランスにおいて個展を開かれるなど、現代陶芸界の第一人者として活躍しておられます。

今回の講演では、ペルシアやベトナムでの調査を踏まえた最新の研究成果を、多数のスライドを用いて、懇切丁寧に、かつユーモアをまじえて示されました。



◎ 講演要旨

1. 織部という謎のやきもの

安土・桃山時代は日本の歴史の黄金期で、西洋や東南アジアから盛んに文化が移入され、東洋のルネッサンスといわれている。志野も織部の一種であるが、桃山の中・晩期に織部が忽然と世に現れ、それまで線彫りか印花でつけられていた文様のはじめて筆書きされるようになった。器形もアンバランスなものが多く、文様も約3分の1が異国の文様である。織部は、外国の影響をいり濃く受けた謎のやきものである。

2. ペルシア砂漠での発掘、点と線

昭和36年から25年間にわたり、ペルシアでやきものの発掘と研究をすすめてきたが、ある町で織部焼とまったく変わらない文様のやきもの

の破片を発掘した。ただ、日本とのつながりがなんとも不明で、まさに、松本清張の「点と線」そのものであった。

3. 大仙寺の緑釉香炉と海外注文品

八百津町にある古刹大仙寺でチャンバ焼の三足緑釉香炉を目にした。チャンバとは、古代から近世にかけてチャン族がベトナムに作った王国で、日本と交易関係にあった。ただ、やきものはきわめて日本的であり、朝鮮・金海製の御所丸茶碗や中国・景德鎮製の祥瑞と同様、日本から特別に注文をして焼かせたものと思われる。

4. ベトナム発掘調査

ベトナム中部の町ダナンは、チャンバ焼の都であるが、ペルシア陶器も発掘されており、当時、西方との交易が盛んに行われていた。

ダナン近くの町ホイヤンには、天正時代、500人ほどの日本人が居住した日本人町があり、御朱印船を通じて、堺や博多、長崎、伊勢の大湊などとも交流があった。現在も、格子や卯建、白壁の土蔵などが残っている。この町の資料館に高火度の緑釉瓦が所蔵されており、大量に安定して生産されていたことが伺われる。

当時、ペルシアでは、オスマン商人が盛んに海外に雄飛していた。この地の土はナトリウムなどを多く含んでいるため、1000度以下の低火度のやきものしか作れない。そのためもあってか、高火度のやきものに対するあこがれが強く、イスタンブールのトプカピ宮殿には10万点にも及ぶ高火度のやきものが収集されており、その中にはベトナムの高火度緑釉陶器も含まれている。ベトナムの高火度焼成技術と、オスマン商人がベトナムにもたらした緑釉焼成技術により、ベトナムで高火度緑釉陶器が焼成され、それがトルコや日本に将来されたのである。

日本では、奈良時代に低火度緑釉陶器を焼成している。7世紀中頃の動乱で日本に帰化した百済の高官が技術を伝えたと思われる。桃山時代に、突如、高火度緑釉陶器が焼成されるようになったが、それは鉛（低火度釉の媒溶剤）が

大量の鉄砲弾製造のために不足し、輸入品の鉛にかわって木灰（高火度釉の媒熔剤）が用いられるようになったこと。高火度に耐えうる窯が築造されるようになったこと。当時、ベトナムから高火度釉を用いた安南織部が輸入されるようになったことなどによると思われる。

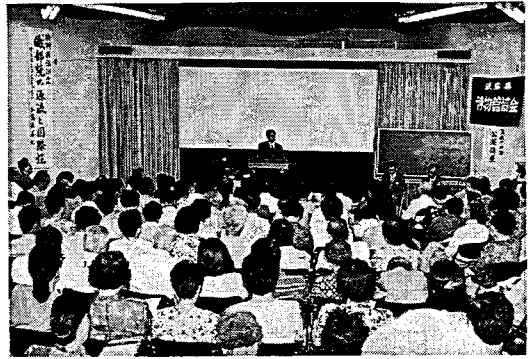
ペルシアにはじまったやきものの道が、こうしてベトナムを経て日本につながったのである。

5. 織部の人間像と国際性

古田織部は、本巣郡山口の城主の息子で、晩年、徳川方に仕えたが、千利休に茶を習い、利休の死後、茶道界の主導権を握った人物である。

茶道が盛んになり、日本でも茶道具を作成しようということになり、良質の土を産出する美濃に日が当たることとなった。また、大陸文化の影響から脱却したいとの風潮があり、ベトナムのやきものをヒントに織部焼を生み出したと思われる。そこには、ポルトガルやスペインの衣装、デザインなどの影響もみうけられる。

6. 日本文化の構造



ヨーロッパでは、今、織部が一種のブームとなっている。これまで柿右衛門や古伊万里、鍋島などを展示していた大英博物館にも織部が展示されるようになった。シンメトリーの世界に生きるヨーロッパ人にとって、非対称の織部はきわめて日本的なものとして文化的な衝撃を与えているようである。織部焼は、日本の美を象徴するものとして、今後、日本においても再評価する時期がきているといえよう。

（公開講座委員 野原 薫）

第25回会員研修会報告

資料の展示について

第25回岐阜県博物館協会会員研修会を下記のように実施しました。

〈場所〉大垣市スイトピアセンター

〈日時〉平成5年6月2日(休)

13時～16時30分

〈主題〉「博物館における資料展示について」

〈内容〉

・講演

笥 真理子（岐阜市歴史博物館学芸員）

「特展；朝鮮通信使における展示の工夫」

・事例紹介

森 裕美（内藤記念くすり博物館学芸員）

「くすり博における展示形態の特長」

・施設紹介と見学

北嶋 広子（大垣市文化振興課学芸員）

「スイトピアセンター学習館のアートギャラリー及びハイビジョンシアターの活用方法」

〈参加者〉15名



〈発表内容の概略〉

笥学芸員；一般に馴染みのない朝鮮通信使の歴史的事実を、来館者のレディネスを勘案しつつ原史料の質感を最大限に引き出すことに苦慮した。今回、その展示のストラテジー&スキルを企画・運営者の立場から振り返った。

森学芸員；数年前に増館した「新館」における常設展示・企画展示について、専門性が強いものの一般に関心の高い医薬分野の展示形態、その腐心の具体的な事例を紹介。

（研修委員 前田 伸）

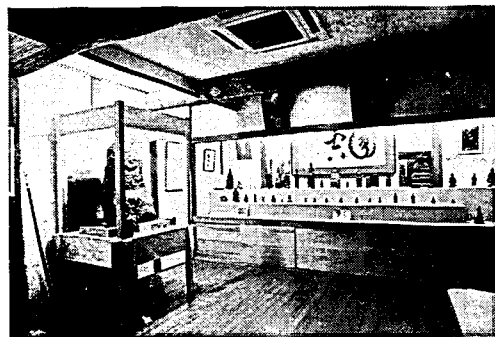
円空美術館

〒500 岐阜市大宮町2-17
(岐阜公園・歴史博物館前)
TEL 0582-66-4556



寛永9年(1632)美濃の国に生まれた円空は、生涯を修行と庶民の救済に全国を遍歴し、貧しい農民や漁民の信仰と委託にこたえて、多くの神仏像を作りました。

円空は寛文3年(1663)から元禄5年(1692)までのおよそ30年間全国を巡り、12万体を越える神仏像を作りました。そして元禄8年(1695)7月15日の盂蘭盆うらばんに、関市池尻の長良河畔で入定の素懐を遂げました。時に円空64歳でした。円空がこんなに沢山の仏像を作ったのは、厳しい修行から悟り得た釈尊の偉大な教えである仏教を、苦しんでいる多くの人々に伝えようと、その教えの根本である慈悲の心を仏像に彫りこ



んで皆に与えるためだったのです。

円空仏が近年とみに騒がれ、持て囃はやされるようになったのは、円空仏のほほえみにあるようです。現代の社会は経済優先で、大切な自然がどんどん破壊され、公害は増え、海や川は汚れ、人々の心はすさび、本来の人間性が失われつつあります。このような社会状況のなかで、円空が彫った仏像を見ると、不思議にも心が和んでくるのです。円空芸術は常に庶民の希望と喜びを、そのまま造像の中に余すことなく表現しています。

円空美術館には普賢菩薩、護法神、子安観音、大黒天など、大小40体近くの円空仏があります。

2階には、元屋敷窯の織部や美濃

伊賀、大萱窯の志野など桃山時代から、加藤唐九郎や北大路魯山人など現代陶工の作品まで、さまざまな古美術品が展示されています。

ぜひ一度円空美術館を尋ね、円空仏と対話してみてください。きっと不思議な世界を体験されることでしょう。

◇交通 JR岐阜駅または名鉄新岐阜駅からバス長良方面行岐阜公園・歴史博物館前下車すぐ

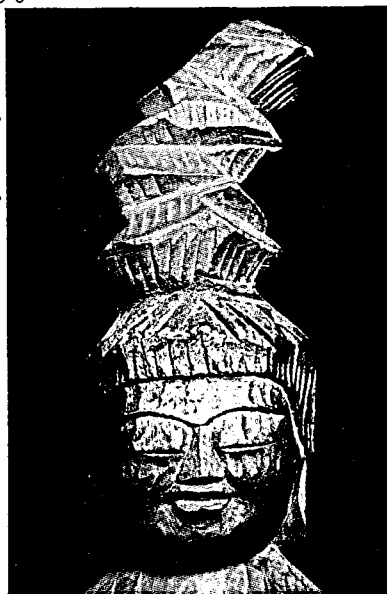
◇開館時間 午前10時～午後4時

◇開館日 水・土・日曜日

◇入館料 高校生以上 500円

小・中学生 200円

(円空美術館 松永義和)



歯の博物館

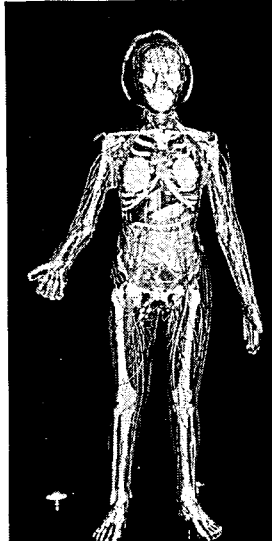
〒500 岐阜市加納城南通り1-18
岐阜県口腔保健衛生センター
(岐阜県歯科医師会館内)
TEL 0582-74-6116

昭和57年5月、岐阜県歯科医師会館（県口腔保健衛生センター）が現在地にオープンして以来、会館3階にある全国初の〈歯の博物館〉は、県民に歯科保健教育の場として利用されてきました。

まず来館者を入口で出迎えるのは、男女一対の透明人体模型です。日本に数組しかない珍しいもので、ボタン一つで内臓や血液、リンパの流れが表示され、テレビが同調して説明してくれます。館内は「こわいむし歯」「歯の治療今昔」「よい歯をつくる」「歯の法医学」「学校歯科」「歯の社会医学」「歯ぐきの病気」「口の中の病気」「歯と人とのかわり合い」「歯の立体模型」「入れ歯のじょうずな使い方」「咀嚼機能の全身への影響」といった12のコーナーに分かれ、歯と全身との関係が一目でわかるよう工夫されています。

「歯の治療今昔」のコーナーには、徳川家康も使用したという江戸時代のツゲの入れ歯や明治時代のおはぐろ用陶歯、昭和20年頃まで使用された足踏み式の治療器械、不正咬合のいろいろな矯正装置などが展示されています。

「歯の法医学」のコーナーでは、歯は死後の物理的、化学的変化が少ないため、死体の身分確認に役立つことがわかります。指紋の100億分類程度に対し、歯は健全な歯、むし歯、歯周病、歯科治療方法などによって23兆以上に分類でき、確率的に全く同じ口腔状態の人が出現す



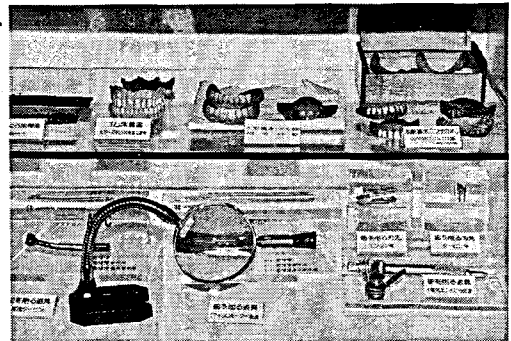
る可能性は2～3万年に1回とのことです。

「学校歯科」のコーナーには、岐阜市本荘小学校歯科校医であった蒲生勝巳氏によって昭和44年に全国で初めて設立され、その後県内の小学校で増えた“歯の塔”が写真で紹介されています。塔の中には、小学校在学中にぬけた学童の乳歯が納められています。

よくかむことは食物の毒性を抑え、だ液腺ホルモンの分泌を促し、自律神経や脳を活性化させ、老化、ほけ、肥満、成人病、がんを予防し、勉強、仕事、スポーツなどに好影響を与えることから、平成3年7月に成人・中高齢者コーナーが増設されました。

岐阜県歯科医師会では、今後の長寿社会に向けて“8020（80歳で自分の歯が20本）運動”を呼びかけています。いつまでも自分の歯でおいしく食べたいですね。

- ◇交通 岐阜バス・市営バス城南通り下車 徒歩5分
- ◇開館時間 午前10時～午後4時
- ◇休館日 月曜日・8月15日・年末年始
- ◇入館料 無料



(岐阜県博物館 安田 守)

平成4年度 岐阜県博物館協会歳入歳出決算書

前期繰越金 120,871円 支出金 1,136,187円
 収入金 1,111,036円 次期繰越金 95,720円
 合計 1,231,907円 合計 1,231,907円

歳入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 (△)	備 考
会 費	584,000	619,000	35,000	県立 3館 30,000円 市町村立 59館 295,000円 私立法人 60館 180,000円 個人会員 23名 46,000円 賛助会費(高山市) 50,000円 入会金 9館 18,000円
補 助 金	490,000	490,000	0	岐阜県 390,000円 岐阜市 100,000円
雑 入	2,000	2,036	36	預金利息
前年度より繰越金	120,000	120,871	871	
合 計	1,196,000	1,231,907	35,907	

歳出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	残 額	備 考
事務局費	265,000	103,206	161,794	
通信連絡費	130,000	75,860	54,140	行案内送付用切手 封筒印刷 全国博物館園職員録購入
印刷費	40,000	24,720	15,280	
需用費	44,000	2,626	41,374	
表彰費	40,000	0	40,000	
振替手数料	1,000	0	1,000	
慶弔費	10,000	0	10,000	
機関紙費	445,000	469,259	△ 24,259	年4回発行
印刷費	300,000	265,200	34,800	第98号 7.20 発行
通信連絡費	80,000	148,839	△ 68,839	第99号 10.15 "
取材費	50,000	34,820	15,180	第100号 2.1 "
会議費	15,000	20,400	△ 5,400	第101号 3.31 "
公開講座費	133,000	131,550	1,450	年4回開催
開催費	73,000	68,600	4,400	第52回 5.31 開催
印刷費	10,000	10,000	0	第53回 7.10 "
通信連絡費	25,000	38,950	△ 13,950	第54回 10.2 "
会議費	25,000	14,000	11,000	第55回 2.5 "
会員研修会費	60,000	69,627	△ 9,627	年3回開催
開催費	40,000	30,000	10,000	第22回 6.4 開催
通信連絡費	20,000	39,627	△ 19,627	第23回 9.29~30 "
				第24回 12.4 "
三県交流研修費	34,000	36,930	△ 2,930	当番県 三重県
東海博総会費	62,000	61,118	882	当番県 静岡県
全国博物館大会費	54,000	66,738	△ 12,738	会場 徳島県
總會費	73,000	72,150	850	5月14日
通信連絡費	25,000	23,250	1,750	於：岐阜県博物館
食糧費	30,000	30,900	△ 900	
会議費	18,000	18,000	0	
常任理事会費	70,000	125,609	△ 55,609	3月19日
会議費	20,000	39,300	△ 19,300	於：フジ会館
旅費	50,000	86,309	△ 36,309	
合 計	1,196,000	1,136,187	59,813	

平成5年度 岐阜県博物館協会歳入歳出予算書

歳入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
会 費	606,000	584,000	22,000	県立 3館 30,000円 市町村立 60館 300,000円 私立法人立 58館 174,000円 個人会員 24人 48,000円 賛助会員(高山市) 50,000円 入会金 2館 4,000円
補 助 金	490,000	490,000	0	岐阜県 390,000円 岐阜市 100,000円
雑 入	2,000	2,000	0	預金利息
繰 越 金	95,000	120,000	△25,000	
合 計	1,193,000	1,196,000	△ 3,000	

歳出の部

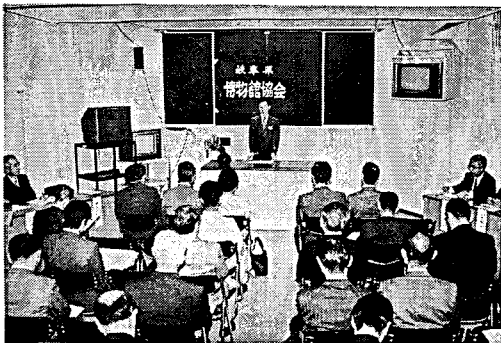
(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
総 会 費	73,000	73,000	0	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会昼食代 ・総会資料印刷 ・切手代
需用費	31,000			
印刷製本費	18,000			
通信運搬費	24,000			
常任理事会費	105,000	70,000	35,000	<ul style="list-style-type: none"> ・費用弁償旅費 ・昼食代
旅費用費	65,000			
需用費	40,000			
機関紙費	378,000	445,000	△ 67,000	機関紙「岐阜の博物館」 年4回発行 <ul style="list-style-type: none"> ・機関紙印刷 ・取材旅費 ・機関紙発送切手代
需用費	52,000			
印刷製本費	180,000			
旅費用費	46,000			
通信運搬費	100,000			
公開講座費	112,000	133,000	△ 21,000	年4回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼金 ・委員旅費 ・昼食代
報償費	60,000			
旅費用費	17,000			
需用費	25,000			
印刷製本費	7,000			
通信運搬費	3,000			
会員研修会費	76,000	60,000	16,000	年3回開催 <ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼金 ・委員旅費
報償費	20,000			
旅費用費	36,000			
需用費	10,000			
通信運搬費	10,000			
三県交流研修会費	31,000	34,000	△ 3,000	当番県 愛知県(豊橋市) 内 発表者謝礼 5,000円
東海博連協総会費	49,000	62,000	△ 13,000	当番県 愛知県(名古屋市) 内 各県負担金 30,000円
全国博物館大会費	100,000	54,000	46,000	会場 北海道(札幌市)
事務局費	269,000	265,000	4,000	<ul style="list-style-type: none"> ・副賞 楯購入費 ・会費納入・各種案内等切手代
表彰費	180,000			
旅費用費	10,000			
需用費	4,000			
印刷製本費	20,000			
通信運搬費	45,000			
慶弔費	10,000			
合 計	1,193,000	1,196,000	△ 3,000	

◎岐阜県博物館協会総会開かる

平成5年度通常総会が5月14日(金)岐阜県博物館で開催され、協会の役員の一部が次のとおり選任されました。

- 名誉会長 梶原 拓 (岐阜県知事)
- 会 長 浅野 勇 (岐阜市長)
- 副会長 日下部 尚 (高山市長)
青木允夫 (内藤記念くすり博).
横山勢津男 (岐阜県博)



総会の場で次の6氏が表彰されました。

◇篠田幸男氏

岐阜県博物館協会の副会長として協会の運営に多大な貢献をされました。

◇古川秀昭氏

多年にわたり岐阜県美術館に勤務されるとともに、美術館界に多大な貢献をされました。

◇山本敦子氏

多年にわたり岐阜県美術館に勤務されるとともに、美術館学芸員として多大な貢献をされました。

◇中尾美知子氏

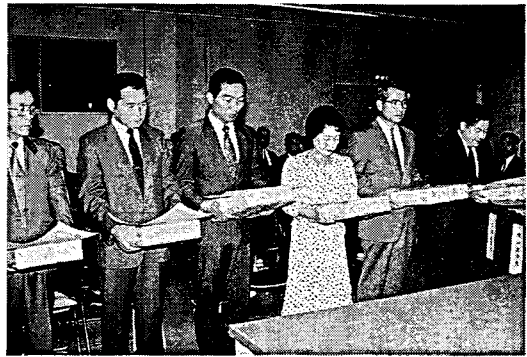
多年にわたり岐阜城に勤務し出札員としての業務を的確、迅速に処理され、岐阜城の事業運営に多大な貢献をされました。

◇水口登美子氏

多年にわたり高山屋台会館に勤務され、重要有形民俗文化財の保存管理に万全を期すとともに、研究論文の発表など博物館界に多大な貢献をされました。

◇渡辺美津子氏

多年にわたり中津川市青邨記念館に勤務され、職務に対する研究の積み重ね等青邨記念館に多大な貢献をされました。



◎岐博協公開講座・

会員研修会等のご案内

★第58回公開講座 10月11日(月)

会場 郡上八幡総合文化センター

内容 日本画の美を考える

講師 岐阜県美術館学芸部長 平光明彦氏

★第59回公開講座 平成6年2月5日(土)

会場 岐阜市歴史博物館

内容 戦前の日常生活にみるデザイン

講師 岐阜市歴史博物館学芸員

大塚清史氏

★第26回会員研修会 9月30日(木)・10月1日(金)

会場 高山市地域

内容 飛騨地区を例とした地域博物館のあり方

★第27回会員研修会 12月9日(木)

会場 岐阜県博物館

内容 資料の管理——燻蒸のしかた等

★第41回全国博物館大会

10月20日(木)・21日(木) 於 札幌市

★第18回東海三県博物館協会交流研修会

11月25日(金)・26日(土) 於 豊橋市